

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[ディレクトリおよびファイルのメンテナンス](#)

[ログファイル](#)

[ONS15xxxService ログおよびトレースファイル](#)

[コアファイル](#)

[/var/tmp ディレクトリ](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Transport Manager (CTM) プラットフォームでのディスクのクリーンアップおよびディスク領域の維持についてのヒントを紹介します。CTM サーバを効率的に維持し、パフォーマンスを最大限にするには、不要なファイルを削除し、最低限のファイルのみ保持する必要があります。

注削除して特定のファイルについて確実ではない場合 [Cisco Technical Assistance Center \(TAC\)](#) ([登録ユーザのみ](#)) とのサービス リクエストを開いて下さい。登録ユーザではない場合、あなた自身を登録し、次に Cisco TAC のサービス リクエストを開くことを [ユーザ登録](#) に行ってください。

前提条件

要件

Cisco は CTM のナレッジがあることを推奨します。

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は CTM バージョン 4.6.x および それ 以降に基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

CTM サーバアプリケーションの最適なパフォーマンスに関しては、ログおよび他のテンポラリファイルを書くためにアプリケーションのための十分なディスクスペースを確認して下さい。次の理由でいくつかのこれらのファイルはディスクに残ります:

- ファイルはシステム アドミニストレータによって操作を必要とします。
- ファイルは解決するために必要な情報を Cisco エンジニア チームに与えて必要です。

ディレクトリおよびファイルのメンテナンス

Cisco は強く CTM サーバのすべてのファイル システムを定期的にチェックすることを推奨します。検討する必要があるディレクトリおよびファイルのリストはここにあります:

- [ログファイル](#)
- [トレースファイル](#)
- [コアファイル](#)
- [/var/tmp ディレクトリ](#)

そのうちのいくつかを取除き、他を保って下さい。このセクションはディスクをクリーンアップするために行う必要がある操作を説明します。これらのディスク操作を行うために、CTM サーバにログインするのに root アカウントを使用して下さい。

ログファイル

CTM ログファイルの名前年と、月接続される **server.log** がおよび日付は含まれています ([図を 1](#)) 参照して下さい。CTM ログファイルはログ ディレクトリに常駐します。

CTM ログファイルにアクセスするためにこれらのステップを完了して下さい:

1. ログ ディレクトリにディレクトリを変更して下さい ([図](#) の矢印 A を [1](#)) 参照して下さい。
2. 型 **ls** はログ ディレクトリのすべてのログファイルを表示するために -l 『Enter』 を押し、([図](#) の矢印 B を [1](#)) 参照して下さい。推奨事項は最新 4 つのログファイルだけ保存することです ([図](#) の矢印 C を [1](#)) 参照して下さい。すべての古いログファイルを削除して下さい。たとえば、**RM server.log.2005-11.13** コマンドは **server.log.2005-11-13** と名付けられるファイルを削除します。 [図 1](#) が。 **ログファイル**

```
# cd /log ← A
# pwd
/log
# ls -l ← B
total 24656
-rw-r--r-- 1 root root 0 Dec 17 20:30 server.log
-rw-r--r-- 1 root other 797206 Nov 14 23:59 server.log.2005-11-13
-rw-r--r-- 1 root other 797760 Nov 15 23:59 server.log.2005-11-14
-rw-r--r-- 1 root other 147456 Nov 16 04:26 server.log.2005-11-15
-rw-r--r-- 1 root other 0 Nov 16 13:28 server.log.2005-11-16
-rw-r--r-- 1 root other 137632 Nov 28 23:59 server.log.2005-11-28
-rw-r--r-- 1 root other 797760 Nov 29 23:59 server.log.2005-11-29
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Nov 30 23:59 server.log.2005-11-30
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 1 23:59 server.log.2005-12-01
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 2 23:59 server.log.2005-12-02
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 3 23:59 server.log.2005-12-03
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 4 23:59 server.log.2005-12-04
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 5 23:59 server.log.2005-12-05
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 6 23:59 server.log.2005-12-06
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 7 23:59 server.log.2005-12-07
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 8 23:59 server.log.2005-12-08
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 9 23:59 server.log.2005-12-09
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 10 23:59 server.log.2005-12-10 ← C
-rw-r--r-- 1 root root 797760 Dec 11 23:59 server.log.2005-12-11
-rw-r--r-- 1 root root 797206 Dec 12 23:59 server.log.2005-12-12
```

ONS15xxxService ログおよびトレースファイル

問題を解決することを試みると同時に Cisco TAC エンジニア チームは ONS15454NEService のようなサービスのトレースを有効にするように要求できます。このサービスは showctm コマンド出力が表示するプロセスの 1 つです。サービスの水平な既定のログはマイナーで普通設定されます。すべてのサービスのためのマイナーで水平なログによって 2 つのログファイルは各プロセスのためにあります。CTM サーバが開始するとき、CTM は .bak 拡張を用いる前のログファイルの名前を変更し、次に .log 拡張を用いる新しいログファイルを開始します。

たとえば、ONS15454NEService* をチェックするプロシージャはここにあります:

1. /opt/CiscoTransportManagerService/log にディレクトリを変更して下さい ([図](#) の矢印 A を [2](#)) 参照して下さい。
2. ls を -l ONS15454NEService* コマンド発行して下さい ([図](#) の矢印 B を [2](#)) 参照して下さい。すべての関連ファイルは現われます。ONS15xxxService ログファイルの前のバージョンは ONS15454NEService-1.log.bak です ([図](#) の矢印 D を [2](#)) 参照して下さい。現在のログファイルは ONS15454NEService-1.log です ([図](#) の矢印 C を [2](#)) 参照して下さい。 [図 2](#) か。サービス ログ ファイル

```
# cd /opt/CiscoTransportManagerServer/log ← A
# pwd
/opt/CiscoTransportManagerServer/log
# ls -l ONS15454NEService* ← B
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 17 20:28 ONS15454NEService-1.log ← C
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-1.log.bak ← D
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 17 20:28 ONS15454NEService-1.log.lck
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-12.log
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 09:58 ONS15454NEService-12.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-12.log.lck
-rw-r--r-- 1 root other 2097140 Dec 20 16:04 ONS15454NEService-12Error.log
-rw-r--r-- 1 root other 68919 Dec 15 10:34 ONS15454NEService-12Error.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 15 10:44 ONS15454NEService-12_initialization.log
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 15 09:58 ONS15454NEService-12_initialization.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 0 Dec 15 10:44 ONS15454NEService-12_initialization.log.lck
-rw-r--r-- 1 root other 2097156 Dec 20 16:04 ONS15454NEService-1Error.log
-rw-r--r-- 1 root other 2097150 Dec 17 20:26 ONS15454NEService-1Error.log.bak
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 17 20:28 ONS15454NEService-1_initialization.log
-rw-r--r-- 1 root other 537 Dec 15 10:43 ONS15454NEService-1_initialization.log.bak
```

.bak サフィックスと ONS15xxxService ログファイルを取除くことができます。トレースするために水平なログをおよび有効にされてアーカイブ ログ モードを設定する場合、トレースファイルはまた /opt/CiscoTransportManagerServer ディレクトリのファイル拡張子の一部として日時と現われます ([図](#) を [3](#)) 参照して下さい。 [図 3](#) か。

/opt/CiscoTransportManagerServer ディレクトリのトレースファイル

```
-rw-r--r-- 1 root other 2097261 Dec 6 11:31 ONS15454NEService-1.log.12062005113129
-rw-r--r-- 1 root other 2097193 Dec 6 11:31 ONS15454NEService-1.log.12062005113144
```





Cisco は CTM がネットワーク上の問題を解決したいと思わなければログをマイナーで水平保存することを推奨します。左がチェックを外した場合、トレースファイルはすぐにディスクの大きいエリアを消費し、CTM を失敗させます。解決する間、だけ水平なトレースするためにログを変更して下さい。トレースがつく間、トレースファイルのサイズを監視して下さい。テストが完了するときトレースをオフにすることを忘れないでいて下さい。もはや必要とされないときすべてのトレースファイルを取除いて下さい。古いトレースファイルを削除するために RM コマンドを使用できます。

コア ファイル

CTM サーバのプロセスが異常に終了するとき、オペレーティング システムはクラッシュの時にプロセスのメモリ内部状態が含まれているコア ファイルを全部書くことができます。プロセスが

停止した、および変数の値を使用して下さい行その時検出するのにコア ファイルを。コア ファイルは /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリに常駐します。Cisco エンジニア チームは問題を解決するのにコア ファイルを使用します。

コア ファイルにアクセスするためにこれらのステップを完了して下さい:

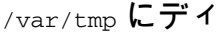


1. /opt/CiscoTransportManagerServer/bin にディレクトリを変更して下さい ( の矢印 A を [4](#)) 参照して下さい。
2. すべてのコア ファイルを表示するために ls を -l core* コマンド発行して下さい ( の矢印 B を [4](#)) 参照して下さい。矢印 C は  /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ディレクトリのすべてのコア ファイルを表示する。コア ファイルを削除するのに RM を使用できます。たとえば、RM core.454NEService-1.10481。  図 4 か。コア ファイル

```
# cd /opt/CiscoTransportManagerServer/bin ← A
# pwd
/opt/CiscoTransportManagerServer/bin
# ls -l core* ← B
-rw----- 1 root other 620876672 Dec 17 20:27 core.454NEService-1.10481
-rwxrwxrwx 1 root root 580937116 Dec 13 07:57 core.454NEService-1.12154 ← C
```

[/var/tmp ディレクトリ](#)

/var/tmp ディレクトリは検討する、システム アドミニストレータとして、必要があるもう一つのディレクトリです。時折 CTM サーバの一部として組み込まれる Cisco Transport Controller (CTC) アプリケーションは /var/tmp ディレクトリの CTC 関連のファイルを作成します。例は取除く必要がある ctc-ELE*.jar ファイルです。

ctc-ELE*.jar ファイルを取除くためにこれらのステップを完了して下さい:

1. /var/tmp にディレクトリを変更して下さい ( の矢印 A を [5](#)) 参照して下さい。
2. ls を -l ctc-ELE* コマンド発行して下さい ( の矢印 B を [5](#)) 参照して下さい。
3. 結果を確認し、名前が ctcELE から始まるすべてのファイルを取除くために RM ctc-ELE* コマンドを発行して下さい。  図 5 か。 /var/tmp ディレクトリ

```
# cd /var/tmp ← A
# pwd
/var/tmp
# ls -l ctc-ELE* ← B
-rw-r--r-- 1 root root 12423905 Dec 2 14:36 ctc-ELE11218.jar
-rw-r--r-- 1 root root 22165797 Dec 8 21:25 ctc-ELE15341.jar
-rw-r--r-- 1 root root 0 Dec 8 21:25 ctc-ELE15342.jar ← C
```

関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)